

コラム

## 新宿のヘイトスピーチ

背広の老人が極右集団に語りかけた

小林 寿太郎

### ヘイトスピーチに対する抗議の呼びかけ

自宅でインターネットを見ていると、1月28日（日）に新宿の柏木公園で日韓国交断絶などを主張する極右団体が集会を開き、その後デモをおこなう予定であるという記事があった。その団体は過去に在日韓国人に罵詈雑言を浴びせるなどのヘイトスピーチを繰り返してきたので、今回の集会とデモに対して抗議活動をするように呼びかけていた。

当日、新宿駅西口に近い柏木公園に行ってみると、日の丸やら旭日旗、日韓国交断絶などを要求する横断幕を持った集団が50人ほどいた。公園の周囲には警官隊が二重、三重の阻止線を設けて、ヘイトスピーチに抗議する市民団体は、公園内はもちろん周囲からも締め出されていた。

私は他民族を平気で踏みにじっている集団に対して自分が何もできない無力感に苦しみながら公園のなかを見ていると、背広の老人がゆっくりと公園内に入っていった。老人は日の丸を持った中年の男に何か話しかけはじめた。次の瞬間、あり得ないようなことが起きた。日の丸の中年が激昂して泡を吹きながら怒鳴りはじめた。どうやらその老人は極右団体のど真ん中に乗り込み、ヘイトスピーチはやめろ、すぐに解散しろと言っているらしい。集会を中断された極右集団は血相を変えて老人を取り囲み、お前は何をしに来た、さっさと出ていけ、朝鮮野郎などとわめいている。

平等であることを認め合い、  
尊敬しあう社会を作ろう

付近にいた警官たちも最初はいぶかしそうに見ているだけだったが、すぐに気を取り直して

駆けつけ老人と極右集団を分断した。警官たちが老人に怪我をしないといけないから向こうへ行きましょうと言うと私は穏やかに話しているだけです、などと言いながら、やがて新宿の雑踏に消えた。まもなく100人ほどになった極右集団は臆面もなく口汚いスローガンをわめきながら公園から出てきた。

ほぼ同じ人数の市民グループは差別はやめろ、日本人の名誉を汚すな、などと口々に叫びながら抗議行動をしていた。市民グループはヘイトデモと並行しながら解散地点まで抗議行動を続けていた。

私はヘイトスピーチを根絶するためには、すべての人はお互いに平等であることを認め合い、お互いに尊敬しあうことが大切だと思う。また、それを可能にする社会を作ることが必要だと思う。そういう意味でヘイトスピーチを根絶することは金融労働運動とも共通するのではないかと思う。